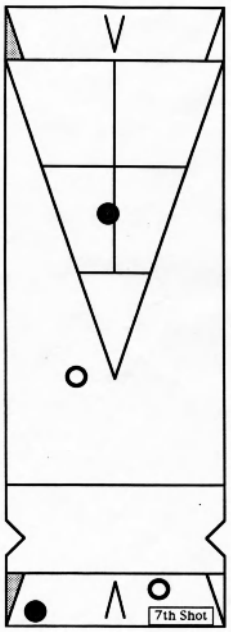
SC-11. 最適のショットを選ぶ

横浜シャフルボード協会

“Tough choice” by Lary Faris　　抄訳：薩川俊三

ショットの方法がいくつか考えられる状況が常にある。どのショットも可能だが危険もあるので、最適なショットを選ぶのは難しい。図はそのような例だ。

イエローがフレームの第７ショットをシュートしようとしている。ボード上には、イエローのセントピートがあって、その背後にイエローが得点することができる。 8/8 ライン上にブラックディスク（ライン上のディスクをライナーと言う）があり、その大部分がブラック側だ。ブラックがハンマーをそのライナーに当てて、ダブルの 16 得点する可能性があるので、イエローはライナーを無視できない。イエローのショットは 3 つ考えられる。



(A) 10 の頂点の左にディスクを置いて、ライナーをブロックする。
(B) ライナーを無視して、セントピートの背後に得点する。
(C) ライナーをキッチンに入れ、ライナーに当てたシュートディスクがセントピートの背後に 8 得点して、一部でも隠れることを期待する。

(A) は、一番安全なショットで、ブラックがハンマーを 8 得点するのも、少し妨げる。
(B) は、75 ポイントゲームで、イエローが大きくリードしていて、ゲームを早く終わらせようとする時にだけ良い選択だ。しかしその場合も、うまくいかないことがあるので、次のフレームでハンマーを得点させる方がベターだ。
(C) は、スーパーショットで、勝利へのリードを得ることができるが、望ましくない結果になる危険がある。ブラックに 10 オフの代わりに 7 点を与える恐れがあるし、残ったイエローディスクがまる見えで、ブラックにハンマーでキッチンに入れられる恐れがある。

私ならどうするか？　ゲームの中盤で殆ど同点の場合とする。

シングルスゲームでは(C)を選ぶ。ライナーをキッチンに入れ、キューディスクが、少なくとも部分的に隠れた 8 得点になるようにプレーする。しかし、そのコートでうまくプレーができていない時は選ばない。

ダブルスゲームでは(A)を選ぶ。これは最も確実な戦術だ。用心深くプレーして、パートナーの信頼を保つ。危険なショットはシングルスに限る。